



- 1. 例会最重点主義で、例会出席者の純増・出席率を高める。
2. 会員増強目標
3. 福島職業宣言文化
4. 青少年ショート交換事業実施への研究
5. 横断的な委員会ジョイントでの活動強化
6. ローターリ-賞への挑戦
7. ローターリ-財団への理解と活用
8. 米山記念奨学会への協力

飯坂ロータリークラブ 週報

創立 昭和33年(1958)5月5日
ガバナー 石黒秀司
ガバナー補佐 佐久間弘行
会長 菅野浩司
幹事 斎藤孝裕

3月は水と衛生月間

2020-2021年度 例会日/木曜日12:30 例会場/かむろみの郷 穴原温泉 匠のこころ 吉川屋
RI会長 ホルガー・クナーク 事務局/〒960-0211 福島市飯坂町湯野字新湯6 (吉川屋内) 電話(024)542-2226 FAX(024)543-1433
ヘルツォークトゥム・ラウエンブルグ・マルンRC (ドイツ)

通算

第25回 [3033] 例会報告 令和3年(2021)3月18日(木)

出席委員会報告

Table with membership statistics: 会員総数 39名, 出席会員 29名, 欠席会員 10名, 出席率 74.36%

言行はこれに照らしてから 「四つのテスト」

- 1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

- ◆開会点鐘 菅野浩司 会長
◆ロータリーソング [それでこそロータリー]
◆四つのテスト 西山友幸 職業奉仕委員長

◆お客様紹介 NPO法人 ヒューマン・ネットワークふくしま 理事長 菅野淳一 様
福島民友新聞社飯坂支局長 (4/1赴任) 伊藤俊憲 様

♪ 今週の誕生日 3月24日 斎藤 孝裕 会員

lunch time

◆会長の時間



本日も例会ご出席ありがとうございます。本日は、NPO法人ヒューマン・ネットワークふくしま 理事長の菅野淳一様をゲストにお迎えしての例会となります。本来は1月の例会でお招きしてお話いただく予定でしたが、コロナ第3波の影響を受け、休会となり本日よりとなりました。楽しみにしておりましたので、後ほど宜しくお願いたします。先日行われました理事会の報告ですが、主に4月の例会プログラムについて協議しました。4月4日と11日の2日間にわたって、地区大会・地区大会特別セミナーのオンライン開催が決定しておりますので、4月の第1週と第2週は振替休会となります。地区大会・地区大会特別セミナーは YouTube で視聴していただけます。ネット環境にない会員の方は、吉川屋さんで会場を設けて視聴できるようにいたしますので、こちらもご利用ください。また、4月25日に予定しておりました「家族同伴お花見例会」は前年に引き続き、今年も中止とさせていただきます。代わりに夜間例会とさせていただきます。4月15日の通常例会は、服部会員の会員スピーチとなっております。宜しくお願いたします。それから、その他の協議事項として、先日お亡くなりになった村田元会員のお通夜・葬儀告別式の対応等について協議いたしました。

2019-20年度 財団寄付 100%達成クラブとして



◆幹事報告 斎藤孝裕 幹事

A. 来信

①ロータリー米山記念奨学会より 「クラブ支援ロータリー米山奨学生(4月採用) 選考結果について」

B. メーキャップ報告

3/11

会長・幹事会議 オンライン
会長エレクト研修セミナー (PETS) オンライン

菅野浩司、斎藤孝裕 各会員
村上裕司、安齋忠作 各会員

村田家より御遺志金5万円 (故 村田安啓様) 特別基金へ

◆会長エレクトセミナー(PETS)の報告 村上裕司 会長エレクト

3月13日に、Zoomでの会議に参加させていただきました。その中で、RI会長の方針として、会員増強について強化して頑張ってもらいたいということでした。そのテーマは「もっと行動し もっと成長する」として、一人一人の会員が一人を紹介すれば、すぐに目標を達成できるのではないかと、会員増強の方針についてご報告いたします。また、地区の奉仕などのお話もありました。私もZoomの会議には不慣れなので、今後もZoomの会議が増えていくと思いますが、早く慣れるように頑張りたいと思います。以上です。

◆スマイリングBOX 秋葉一彦 委員 【合計30s】

- 菅野 浩司会員 5s 本日はゲストにNPO法人ヒューマン・ネットワークふくしま理事長の菅野淳一様、福島民友新聞社飯坂支局長の伊藤俊憲様をお迎えして
斎藤 孝裕会員 5s ヒューマン・ネットワークふくしまの菅野様、本日はおいでいただきましてありがとうございます。
民友新聞社の伊藤様、ご出席ありがとうございます。
大内 勝行会員 5s こんにちは。妻の誕生日に花をありがとうございます。
中野 哲郎会員 3s ・菅野様のスピーチ楽しみにしています。 ・妻の誕生日にお花を載せて
佐藤 真也会員 3s ゲストに菅野淳一様をお迎えして
渡辺 達也会員 3s 前回欠席お詫び
千葉 政行会員 2s 菅野淳一理事長をおむかえして 楽しみにしております。
鈴木 重忠会員 3s 全回欠席おわび
服部 裕一会員 1s 早退おわび



[永井秀典会員] この度、春の人事異動により4月1日付で本社に移動になります。短い期間でしたが大変お世話になりました。本日は後任の伊藤と共に出席させていただきました。私よりも先輩で、大変活躍している先輩です。それでは、一言ご挨拶をお願いします。

[福島民友新聞社飯坂支局長 伊藤俊憲 様] 現在は会津若松支社の報道部長ですが、4月1日付で飯坂支局でお世話になります。保原ロータリークラブに5年半在籍しており、その時に夜間例会で、先日お亡くなりになった村田さんと一緒に歌を歌った経緯もあり、非常に馴染みもございます。飯坂の発展のために微力ながら尽くさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

【ゲストスピーカーの紹介 千葉政行 会員】 菅野さんには前回お願いしたのですが、コロナの影響で例会が無くなり、今日再びおいでいただきました。福島県の歴史に詳しい方で、是非皆さんにも聞いていただきたいと思い、講師依頼をいたしました。たった30分では語れないと思いますので、また、村上年度でもおいでいただきたいと思います。我々も地元の事を知る機会になりますので、今日は宜しく願いいたします。

◆会員スピーチ 「福島の創立」 NPO法人ヒューマン・ネットワークふくしま 理事長 菅野淳一 様



菅野と申します。宜しくお願いします。ヒューマン・ネットワークふくしまは、人と人とのつながり合いを大切に、町おこしをしようと活動しております。今日は、各村が幕末にはどういってお殿様の領地だったのか、そこから明治になり、今の福島県がどうなったのか、その話をさせていただきます。簡単に私どもの活動をご紹介します。歴史と文化についてのイベントを開催しております。13年間56回にわたり、お酒を飲みながら、講師の話をお聞きするというイベントを続けております。また、観光ガイドもやっております。これは皆さんが驚くような場所に案内するガイドを行っておりますので、福島の方も楽しめます。今日、話を聞いて面白そうと思ったら声をかけてください。

さて、福島というのは特殊な場所です。戊辰戦争の時には11の藩と飛び領、徳川家直轄の代官所がありました。全部で30くらいのお殿様がいたという極めて複雑な場所が福島県です。上飯坂村は棚倉藩の領地でした。7つの藩と徳川家の直轄地、桑折のお殿様と八つに分かれておりました。湯野の西根神社の前に、三州刈谷藩湯野陣屋跡と碑があります。桑折の郡役所の横には陣屋がありました。また、川俣にも徳川幕府の領地を管理する代官がおりました。戊辰戦争が終わり、まだ藩は続いておりましたが、これをどうやって新政府は整理をして、行政をきちんとやっていたかという点で、藩は独立しており、藩ごとに法律があります。当時、山形有朋が軍事を仕切っていたわけですが徴兵制ができないのです。兵隊が組めない。それは藩ごとに勝手にやっているからです。そこで、藩をやめないといけないと提言し、県ができるのですが、これは、ほとんど幕末と変わっておりません。そのまま藩が県になっただけなのです。これではいけないということで、明治政府はいよいよ本格的な県の設立に動きます。明治4年11月に40万石くらいで一つの県にしようということで、福島県には三つの県が生まれます。私たちが住んでいる信夫郡、伊達郡は福島県になります。あとは若松県と磐前県ができました。実は最初は二本松県だったのです。なぜ二本松県からたった11日間だけで福島県になったのか。まず一つは、信夫郡と伊達郡の二郡は、中通りの他の四郡と比較すると、シルク、蚕の卵の生産が倍ありました。あともう一つは、幕府の諸藩が非常に複雑で、命令系統がバラバラで極めて複雑だったということがあります。もう一つ、これがすごいのですが、私たちの地方の人たちの性格が極めて狡猾で、何かあるとすぐ訴え、何か動くときすぐ暴動を起こすという、これは非常に凶暴だと見られておりました。訴訟を起こさないように、それぞれの財産をきちんと尊重できるよう、その狡猾な気性を更生するには、福島に県庁を持ってきて、基本を教えないといけないということで、二本松県から福島県になりました。それから5年後、いよいよ三県が統合し福島県が成立します。この時に移動があります。刈田郡、伊具郡、亘理郡、宇田郡は伊達藩の領土でした。最初に福島県ではなかったのですがあとで加わりました。しかし、いよいよ大合併になるという時に、ちょっと待ってよと、これは大きすぎるといって、刈田郡と伊具郡と亘理郡は宮城県になりました。

ここまでは県についてですが、ここからは小さな市や町の成立になっていきます。最初の頃は、区で分けておりました。これは地元の有力者で、江戸時代から続く肝いり、庄屋さんがやっておりますので、行政的にはほとんど変わっておりません。これからさらに明治11年によく郡ができます。信夫郡や伊達郡は、ほとんど変わりません。ようやく明治22年から市町村ができますが、その時に大合併が行われます。全国で7万5千あった町村が1万5千程度になります。福島市は一気に3分の1になりました。その合併の一つ一つが結構面白いのです。私が勝手に四つのタイプに分けました。『単純に合併する。またはそのまま』『大きな村が小さな村を吸収する』『同じ位の村が合併をした地域の名前をとって名前をつける』『それから、対等合併だったので名前を一つずつとって、新しい名前をつける』、こういう四つのパターンに福島市の場合は分かれます。

こんな風にして、明治22年に私たちがよく聞く名前の村がようやく誕生します。明治の頃に重要なことは、村ごとに村社があったということと、もう一つは道路元標という物があります。福島町になって大正8年に石造りに変えるよう政令で定められました。飯坂にもこの石造りの道路元標は横町に現存しております。貴重な文化財です。明治22年というのは、今の福島市の基盤になっております。実は、この上飯坂村が飯坂町になったのは明治22年です。同時に村から町になった所が福島町なのです。つまり、この飯坂町は福島町とおなじ時期に村から町に昇格をするわけです。福島市が市になったのは明治40年です。福島県で一番早いのは会津若松でした。明治23年くらいに市に昇格しました。そんな流れの中で、この福島市は誕生しました。

もう一度、明治22年に誕生した村を見ていただきたいと思います。皆さん知っている名前が並んでおりますが、今住所としての名前はもう既にありません。どうしてなのかというところを考えていただきたいのです。現在は、全て小学校にその名前を残しております。つまり、この明治22年の合併は、福島市のローカル・コミュニティを作った非常に重要な時代だということになります。小学校と道路元標は小さなソフトであり、ハードの文化財と言っていいと思います。もう捨てられている場所もあるようですので、これらを大切にしていきたいと思います。今後、その地域のコミュニティは、小学校の規模が縮小し無くなるかもしれません。しかし、私は是非残していただきたいと思います。皆様にそのサポートをお願いしたいということを訴えて、私のお話を終わらせていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

◆閉会点鐘 会長